

平成23年9月期決算の概要①【損益の状況】

1. 足利ホールディングス連結

◇連結粗利益は、足利銀行の業務粗利益が前年同期を下回ったことを受け、441億円(前年同期比▲35億円)となりました。また、営業経費は323億円(同比+20億円)となりました。
 ◇一方、与信関係費用が10億円(同比▲53億円)に減少したこと等により、経常利益は105億円(同比▲4億円)となり、中間純利益は106億円(同比▲16億円)となりました。

(単位：億円)

	21/9期 実績	22/9期 実績	23/9期 実績	22/9期比
連結粗利益	471	477	441	▲35
営業経費(▲)	293	302	323	20
与信関係費用(▲)	84	64	10	▲53
株式等関係損益	42	▲0	▲3	▲3
経常利益	136	109	105	▲4
特別損益	2	17	▲0	▲18
中間純利益	139	122	106	▲16

2. 足利銀行単体

◇業務粗利益は433億円(前年同期比▲32億円)となりました。これは、貸出金利回りの低下等による資金利益の減少(同比▲13億円)と国債等債券損益の減少(同比▲16億円)が主な要因です。
 ◇経費は、新システムへの移行に関連して、システム経費が増加したこと等から、282億円(同比+20億円)となり、その結果、実質業務純益は151億円(同比▲52億円)となりました。
 ◇一方、不良債権処理関係の費用である与信関係費用は2億円(同比▲27億円)に減少しました。
 ◇以上から、中間純利益は148億円(同比▲16億円)となりました。

(単位：億円)

	21/9期 実績	22/9期 実績	23/9期 実績	22/9期比
業務粗利益	460	466	433	▲32
資金利益	372	346	333	▲13
役務取引等利益	54	52	50	▲1
その他業務利益	33	67	50	▲17
国債等債券損益	30	63	46	▲16
経費(▲)	251	261	282	20
うち人件費(▲)	119	124	130	6
うち物件費(▲)	113	118	132	13
実質業務純益	209	204	151	▲52
コア業務純益	178	141	105	▲36
一般貸倒引当金繰入額(▲) ①	39	—	—	—
業務純益	169	204	151	▲52
臨時損益	7	▲68	▲7	60
不良債権処理額(▲) ②	24	63	16	▲47
償却債権取立益・貸倒引当金戻入益 ③	—	—	13	13
株式等損益	36	▲0	▲1	▲0
経常利益	177	136	144	7
特別損益	1	28	▲0	▲29
償却債権取立益・貸倒引当金戻入益 ③	2	32	—	▲32
中間純利益	179	164	148	▲16
与信関係費用(注)(▲)	60	30	2	▲27

(注) 与信関係費用=①+②-③

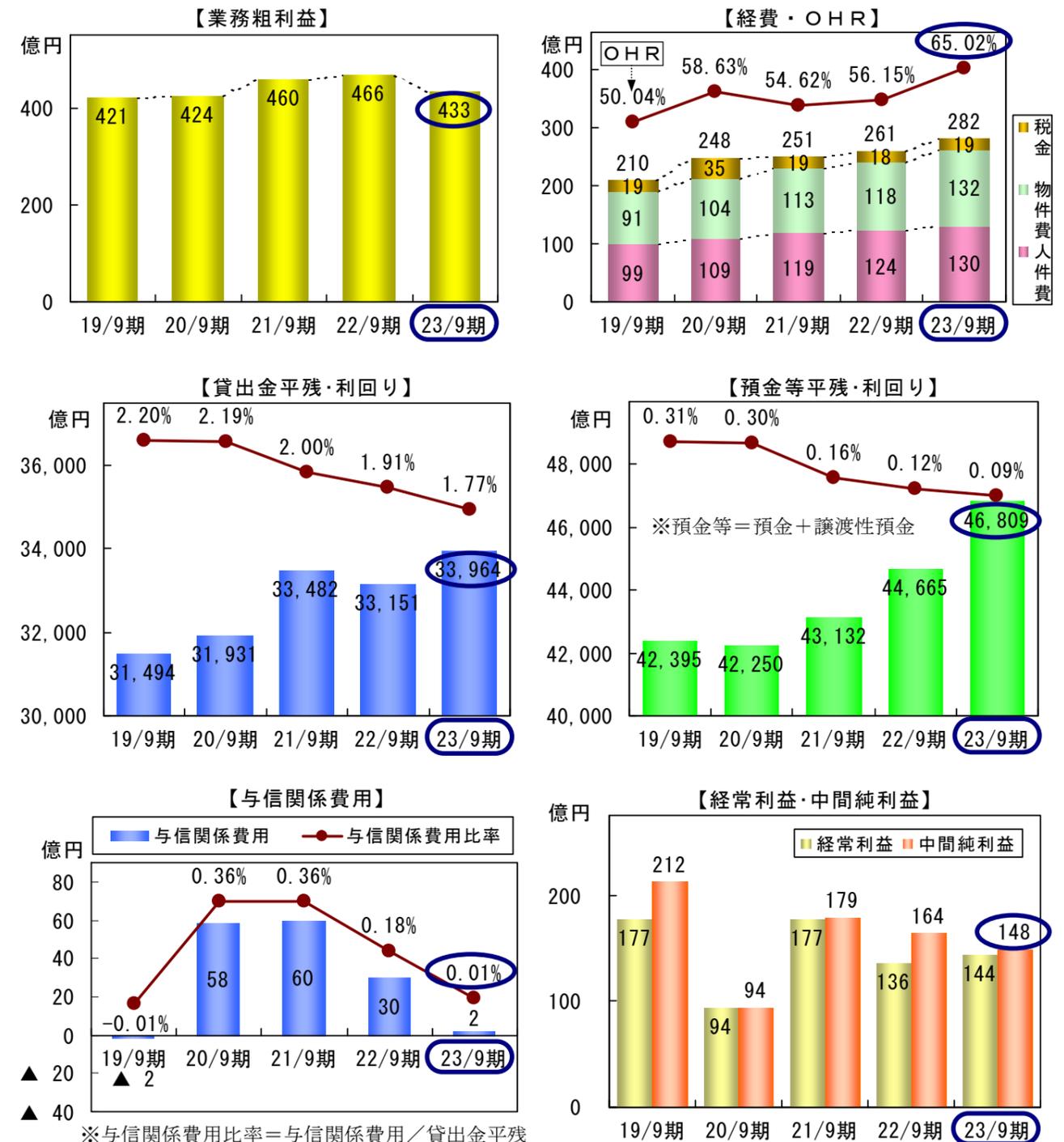
3. HD連結と銀行単体の差額の内訳

(単位：億円)

	23/9期	主な内容
中間純利益の差額	▲41	⇒HD連結106億円-銀行単体148億円
HD劣後ローン支払利息	▲16	⇒HD劣後ローン残高800億円
HDのれん償却	▲31	⇒23/9末のれん1,038億円
その他HD連結調整等	0	⇒有価証券関係損益の調整(※)等
銀行子会社分の損益	5	⇒銀行連結と銀行単体の中間純利益の差額

※足利銀行の保有する有価証券の取得原価が、HD連結と銀行単体で異なるため生じるものです。

4. 主な計数の推移(銀行単体)



※与信関係費用比率=与信関係費用/貸出金平残

平成23年9月期決算の概要②【主要勘定（銀行単体）】

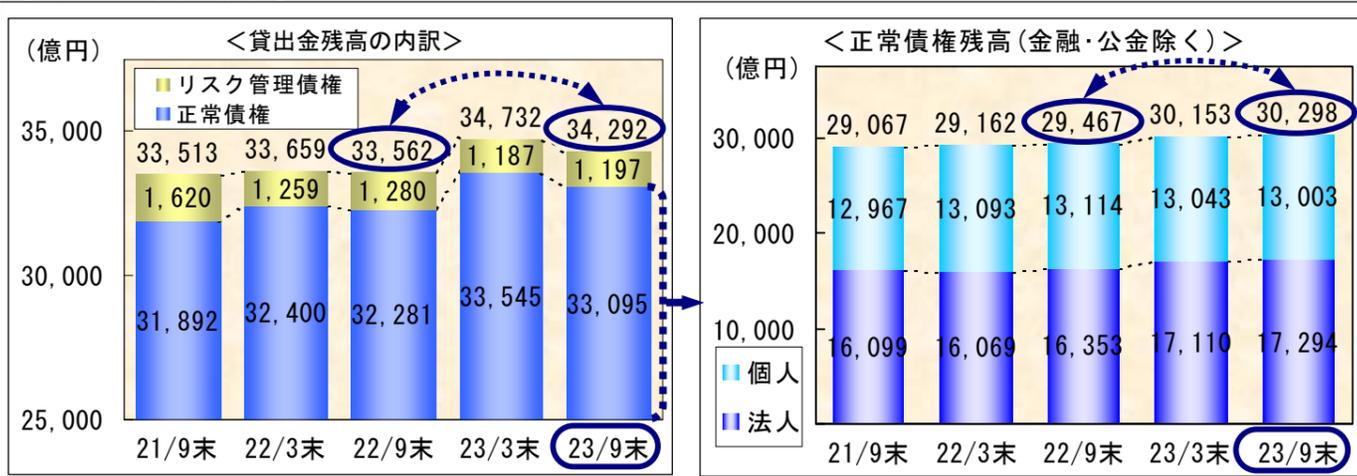
1. 貸出金

- ・貸出金未残は34,292億円(22/9末比+730億円、年増率2.1%)となりました。このうち、法人貸出の正常債権が、17,294億円(同比+941億円、年増率5.7%)となり、大幅に増加いたしました。
- ・住宅ローンは、残高が11,951億円(同比+87億円)、件数が81,787件(同比+546件)に、それぞれ増加となりました。
- ・法人融資先数(要管理先以上)は、20,748先(同比+511先)に増加となりました。

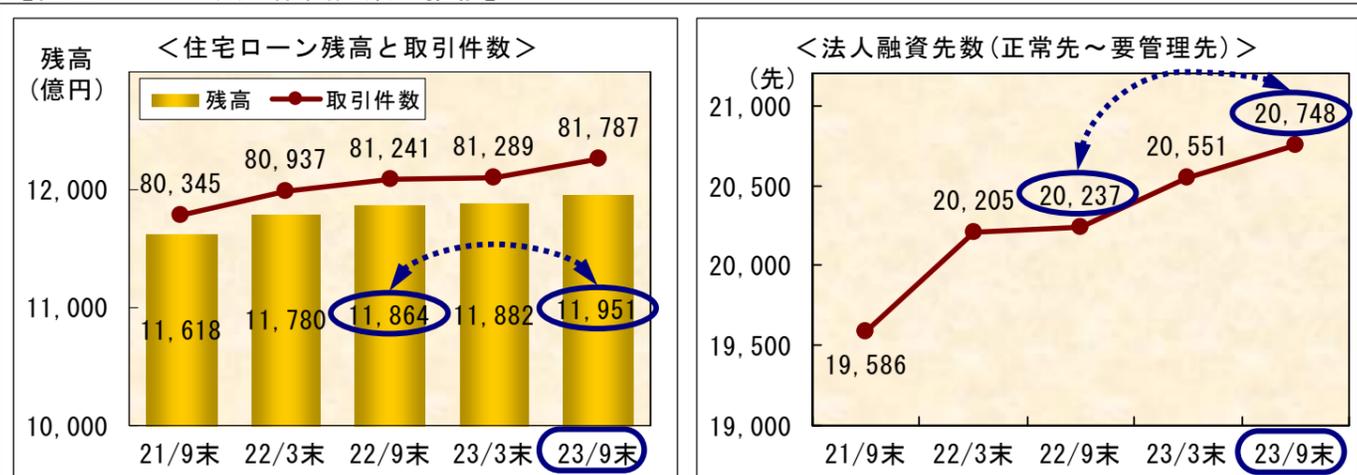
(単位：億円)

	22/9末	23/9末	22/9末比	(年増率)	23/3末
貸出金(末残)	33,562	34,292	730	2.1%	34,732
個人貸出	13,390	13,286	▲103	▲0.7%	13,327
うち正常債権	13,114	13,003	▲110	▲0.8%	13,043
法人貸出	17,358	18,208	850	4.8%	18,013
うち正常債権	16,353	17,294	941	5.7%	17,110
公金+金融	2,813	2,797	▲16	▲0.5%	3,391
(個人ローン)					
個人ローン	12,275	12,322	46	0.3%	12,273
うち住宅ローン	11,864	11,951	87	0.7%	11,882

【貸出金残高の推移】



【住宅ローン・法人融資先数の推移】



2. 預金・個人預り資産

- ・預金等残高(預金+譲渡性預金)は46,734億円(同比+1,910億円、年増率4.2%)となりました。個人預金が22/9末比+1,243億円(年増率4.0%)(実質ベース※1参照)と大幅に増加したほか、法人預金(同比+310億円※1)、譲渡性預金(同比+316億円)も堅調に増加いたしました。
- ・個人預り資産は、保険が増加する一方、投資信託の基準価格の下落を主因として、6,073億円(同比▲147億円)となりました。なお、個人預金とあわせた個人金融資産残高は、38,134億円(同比+644億円、年増率1.7%)となりました。

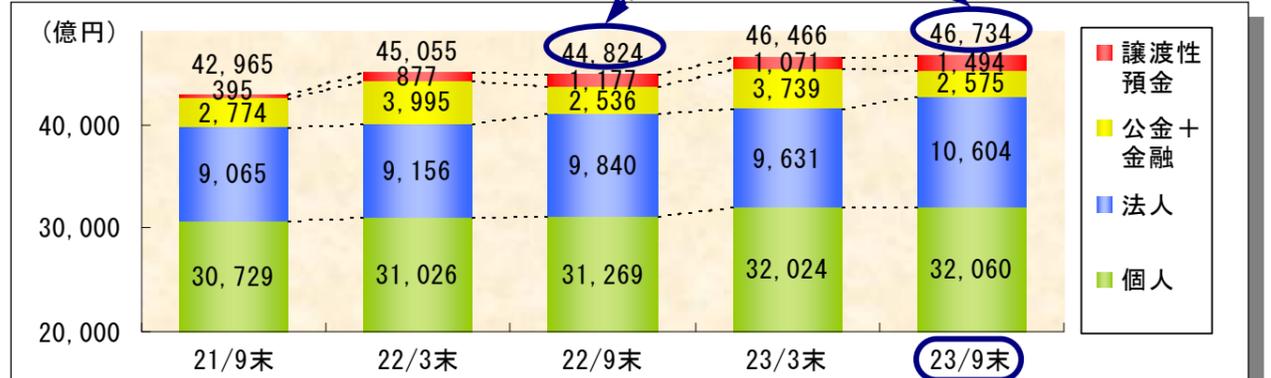
(単位：億円)

	22/9末	23/9末	22/9末比	(年増率)	23/3末
預金等残高(末残)	44,824	46,734	1,910	4.2%	46,466
預金(末残)	43,646	45,240	1,593	3.6%	45,395
個人預金 ※1	31,269 (30,817)	32,060 (32,060)	791 (1,243)	2.5% (4.0%)	32,024 (31,586)
法人預金 ※1	9,840 (10,293)	10,604 (10,604)	763 (310)	7.7% (3.0%)	9,631 (10,069)
公金+金融	2,536	2,575	39	1.5%	3,739
譲渡性預金(末残)	1,177	1,494	316	26.9%	1,071
(個人預り資産)					
個人預り資産	6,221	6,073	▲147	▲2.3%	6,282
投資信託	2,367	2,142	▲224	▲9.5%	2,418
債券(約定ベース)	2,182	1,987	▲194	▲8.9%	2,069
保険 ※2	1,670	1,943	272	16.3%	1,795

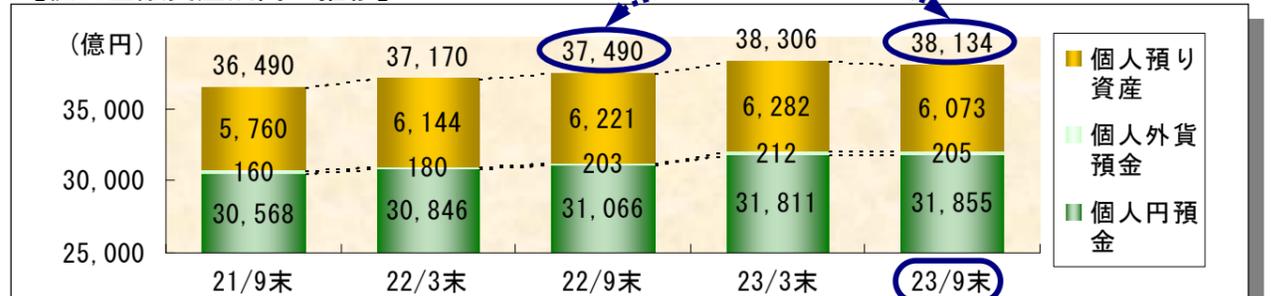
※1. 23年7月の新システムへの移行に伴い、任意団体の預金について、計上区分を「個人」から「法人」に変更いたしました。この変更を遡って調整した場合の影響額は、22/9末が452億円、23/3末が437億円であり、個人預金・法人預金の各欄下段のカッコ内の計数が、その影響額を考慮した計数(実質ベース)となります。なお、実質ベースの個人金融資産残高の増加額は、22/9末比+1,096億円(年増率2.9%)となります。

※2. 保険=個人年金保険+終身保険+学資保険

【預金等残高の推移】



【個人金融資産残高の推移】



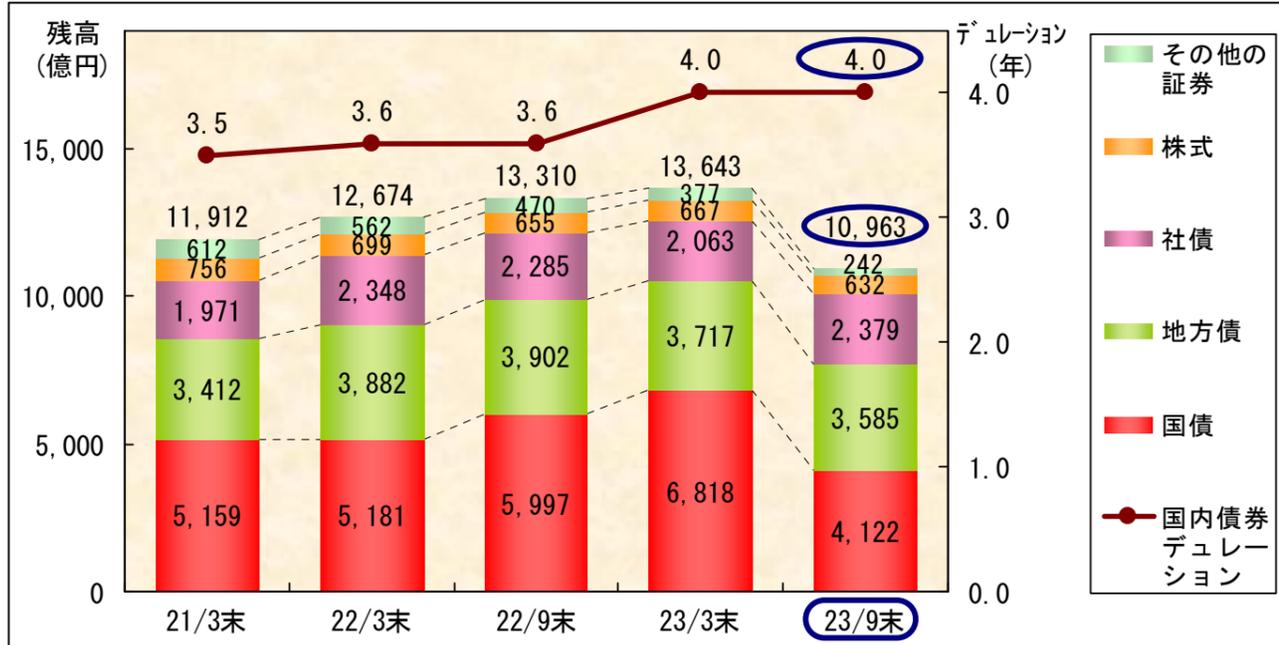
平成23年9月期決算の概要③【有価証券・不良債権・自己資本比率】

1. 有価証券の状況

(1) 有価証券残高・国内債券デュレーション（銀行単体）

- ・有価証券残高は、債券売却の影響等により、10,963億円(23/3末比▲2,679億円)に減少しました。
- ・債券は、国債が4,122億円(同比▲2,695億円)、地方債が3,585億円(同比▲131億円)、社債が2,379億円(同比+316億円)となりました。なお、国内債券のデュレーションについては、23/3末と横ばいの4.0年となりました。
- ・株式は、株価下落の影響から、632億円(同比▲35億円)に減少となりました。

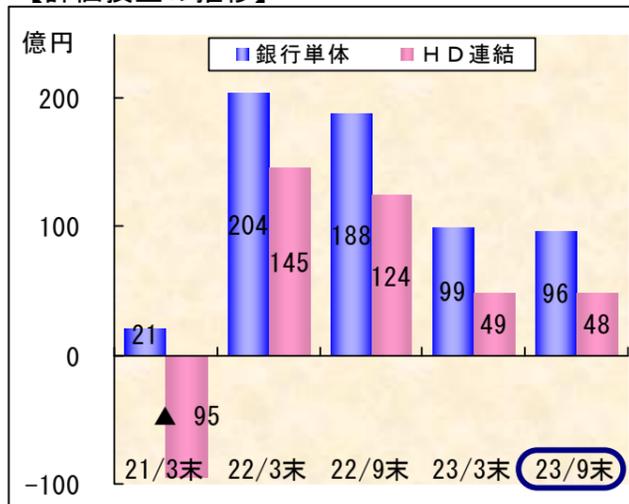
【有価証券残高と国内債券デュレーションの推移】



(2) 「その他有価証券」の評価損益

- ・評価損益は、株価下落の影響等から、銀行単体が96億円のプラス(23/3末比▲3億円)、HD連結が48億円のプラス(同比▲1億円)となりました。
- ・なお、HD連結と銀行単体で評価損益に差が生じておりますが、これはHD連結と銀行単体における取得原価が異なっているため生じているものであります。

【評価損益の推移】



【銀行単体ベース】 (単位: 億円)

	23/3末	23/9末	23/3末比
評価損益	99	96	▲3
債券	63	103	39
株式	79	46	▲33
その他	▲43	▲53	▲9

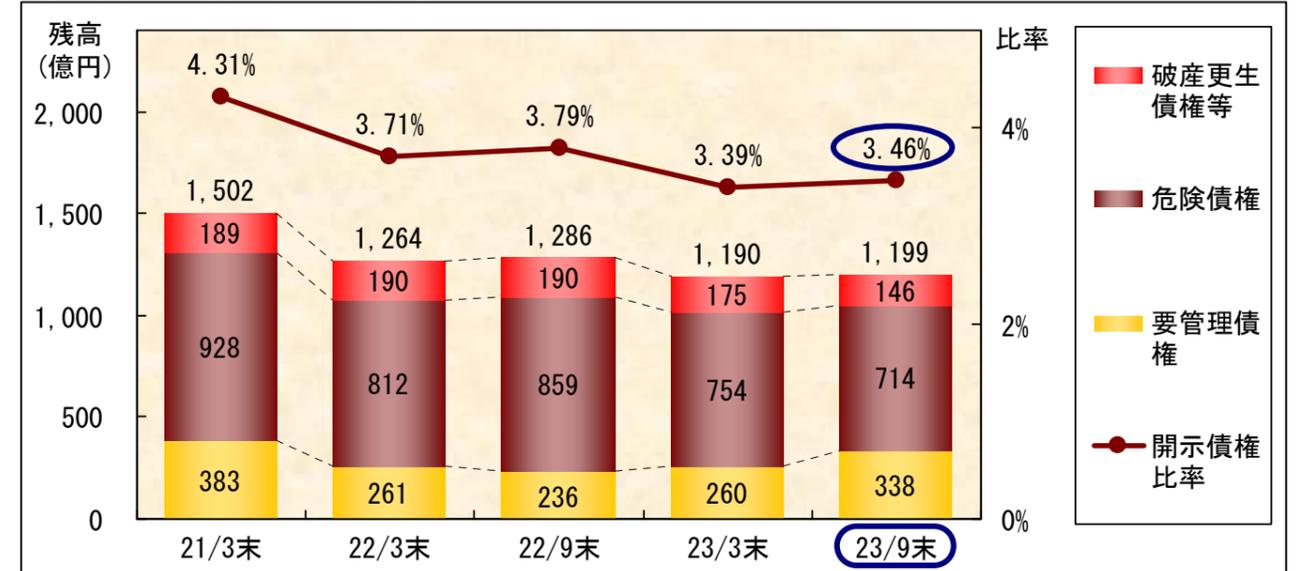
【HD連結ベース】 (単位: 億円)

	23/3末	23/9末	23/3末比
評価損益	49	48	▲1
債券	66	104	38
株式	8	▲21	▲29
その他	▲25	▲35	▲9

2. 不良債権の状況（銀行単体）

- ・震災や景気低迷の影響等から、返済条件の変更等により要管理債権が増加したことから、不良債権(金融再生法開示債権)残高は、23/3末比+9億円の1,199億円(比率3.46%)となりました。

【金融再生法開示債権の推移】



3. 自己資本比率

- ・自己資本比率は、利益の着実な積み上げ等により、HD連結は9.51%(23/3末比+0.88%)、銀行単体は8.69%(同比+0.62%)に、それぞれ上昇いたしました。

【23/3末の自己資本比率】

項目	HD連結			銀行単体		
	23/3末	23/9末	23/3末比	23/3末	23/9末	23/3末比
基本的項目 (Tier1) (A)	1,236	1,373	137	1,829	1,977	148
補完的項目 (Tier2) (B)	869	938	68	153	153	▲0
控除項目 (C)	7	6	▲0	—	—	—
自己資本額 (A)+(B)-(C)	2,098	2,304	205	1,982	2,130	147
リスク・アセット	24,300	24,224	▲76	24,546	24,489	▲57
自己資本比率	8.63%	9.51%	0.88%	8.07%	8.69%	0.62%

【自己資本比率の推移】

